平成 30 年 10 月 29 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1　日　　時　平成30年10月29日（月曜日）

午後２時30分から午後３時10分まで

2　場　　所　教育委員会会議室

3　出席委員

教育長　高橋　譲　　委　員　鷲尾　達雄　　委　員　羽賀　友信

委　員　青柳　由美子　　委　員　大久保　真紀

4　職務のため出席した者

教育部長	金澤　俊道	子ども未来部長	波多　文子
教育総務課長	曽 根　　徹	教育施設課長補佐	吉 田　　朗
学務課長	佐藤　正高	学校教育課長	小池　隆宏
中央図書館長	山田　あゆみ	科学博物館長	小熊　博史
子ども家庭課長	大矢　芳彦	保育課長	田 辺　　亮
青少年育成課長	斎藤　裕子	学校教育課主幹兼管理指導主事	髙橋　和久
学校教育課主幹兼管理指導主事	丸 山　　巧		

5　事務のため出席した者

学校教育課学校支援係長兼指導主事	斎 藤　　豊	教育総務課長補佐	安達　紀子
教育総務課庶務係長	佐 藤　　裕	教育総務課庶務係	五十嵐　淳

6　議事日程

日程	議案番号	案　　件
1		会議録署名委員について

7　会議の経過

（高橋教育長）　これより教育委員会 10 月定例会を開会する。

◇日程第１　会議録署名委員について

（高橋教育長）　日程第１　会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、長岡市教育委員会会議規則第 19 条第２項の規定により、羽賀委員及び青柳委員を指名する。

（高橋教育長）　本日は議事案件がないため、協議報告事項に移る。最初に、家庭でワクワクお手伝いポスターコンクール審査会結果について　事務局の説明を求める。

（斎藤青少年育成課長）　平成 19 年度から実施しているお手伝い運動を推進するため、ポスターコンクールを平成 25 年度から実施している。今年度は、長岡市内の小学１年生から中学３年生までの出品が合計 185 点あった。審査会は、10 月５日に実施し、審査委員長を株式会社ネオス　デザイナー永井一臣氏が務め、審査員には長岡市三島郡学校教育研究協議会　美術研究会の３名ほか波多子ども未来部長の計５名が審査した。大賞は小・中学生各１点、優秀賞４点、奨励賞７点、入選 10 点の計 23 点が選ばれた。大賞の２点は、各学校で教育委員が表彰する。小学生部門大賞の栃尾南小学校２年生　多田心愛さんには、10 月 18 日の全校集会で大久保委員が表彰状と記念品の授与、お手伝いに関する講話を行った。中学生部門大賞の西中学校１年生　小田島彩音さんには、10 月 30 日の学年集会で羽賀委員が表彰する予定である。入選したポスターは、11 月 11 日から 24 日までの長岡市お手伝

い運動推進週間にあわせて、11 月 10 日から 15 日までさいわいプラザ１階市民交流ホール、11 月 17 日から 25 日までアオーレ長岡西棟３階市民協働センターで展示する。大賞受賞作品を使用したコンクール啓発ポスターを 1,000 枚作製し、市内の公共施設や原信の各店舗などに展示する。

（高橋教育長）　質疑、意見はないか。

（高橋教育長）　出品状況について、平成 30 年度は 185 点で平成 29 年度は 188 点であるが、出品数は例年どおりか。

（斎藤青少年育成課長）　例年どおりである。学校で夏課題として取組があった際には、200 点を超えたことが１回あった。

（高橋教育長）　平成 19 年度から実施しているお手伝い運動は、どのような経緯で始まったのか。

（斎藤青少年育成課長）　「熱中！感動！夢づくり教育」を立ち上げた際に家庭教育の重要性について議論があり、その一環としてお手伝い運動を市として取り組むこととなった。

（高橋教育長）　10 年以上続いている取組になり、ポスターコンクールで啓発するなど工夫して運動を実施しているが、実際にお手伝いする子どもが増えてきているなどの成果は見られるか。

（斎藤青少年育成課長）　今年度、取り組んでいる人数や学校が楽しく感じるかなどの調査をする予定である。

（波多子ども未来部長）　平成 25 年度に学校教育課が実施した実態調査では、お手伝いをしている子どものほうが学校が楽しいと感じているとの結果が出ている。今年度も同様の設問により調査して、効果を検証したい。

（高橋教育長）　家庭で子どもにお手伝いをさせよう運動の「させよう」という表現に違和感を覚えるが、そのような意見はないか。

（波多子ども未来部長）　保護者に向けて、ぜひお手伝いをさせてくださいというメッセージが含まれている。家庭教育としてお手伝いをさせてほしいということである。表現について指摘されることもあるため、検証や見直しが必要かもしれない。

（青柳委員）　親が子どもにお手伝いをさせることは、親にとっては時間がかかることであり、自分でやったほうが簡単である。時間がかかってでも子どもにしてもら

うことに意味がある。

（鷲尾委員）　今後、弁当の日の取組も考えてほしい。下越地方では既に取り組んでおり、全国的にも運動が広がっていると聞いている。

（波多子ども未来部長）　寺泊中学校では実施している。

（高橋教育長）　お弁当の日は、お手伝いという観点から、いつも親から作ってもらっている弁当を、お手伝いをしながら親に作ってあげたり、自分の弁当を作ったりするなど様々な方法がある。寺泊中学校は、自発的に実施しているのか。それとも教育委員会からの働きかけがあったのか。

（波多子ども未来部長）　旧寺泊町の頃から当時の校長先生の発案で開始し、何年も実施している。

（高橋教育長）　次に、附属機関等会議報告について　事務局の説明を求める。

（大矢子ども家庭課長）　10 月 22 日に開催した第２回長岡市子ども・子育て会議の内容を報告する。出席者は、委員 18 名のほかアドバイザーとして新潟県立大学小池教授が出席した。議事（１）生活実態調査等の中間報告では、調査結果の速報版から見えてきた課題について説明した。議事（２）ワーキング部会の報告では、部会において 10 月５日に子どもの貧困対策についての検討を、10 月 10 日に長岡市の療育・相談体制の検討を行ったことを報告した。議事（３）ニーズ調査の実施についてでは、今後５年間の子育て支援事業計画などを策定するための基礎調査として、子育て支援施策の利用意向等に関する調査を今後実施する予定であることを説明した。議事（４）グループワークでは、子どもの貧困対策の検討について意見交換した。続いて、生活実態調査の速報値の中間報告について説明する。本調査の目的及び概要は、長岡市在住の 18 歳未満の子どもがいる約 25,000 世帯から 4,000 世帯を無作為で抽出した。回答は郵送によるアンケートで実施し、そのうち回答数は 2,103 世帯で回収率は 52.6%であった。参考に、新潟県が平成 28 年度に実施した同調査では回収率 56.5%、新潟市が平成 29 年度に実施した際は 40.6%であった。調査の結果、長岡市の子どもの貧困率（相当値）は、14.1%で７人に１人の割合であった。相当値としたのは、国が実施した国民生活基礎調査と同一の方法ではなく、それに準じたものであるためである。貧困率とは、ある一定の収入に達していない経済的に厳しい家庭に育つ 18 歳未満の子どもの割合である。参考として、国の最

新値では子どもの貧困率 13.9%（平成 28 年）、長岡市の就学援助割合は 13.9%（平成 29 年度）であり、長岡市においても全国と同様に、経済的に厳しい家庭で育つ 18 歳未満の子どもが一定数いることが明らかになった。速報結果を受けて見えてきた、取り組むべき課題は２点ある。１点目は、子どもの孤食への対策である。「お子さんがひとりで朝食を食べることの有無」「お子さんがひとりで夕食を食べることの有無」の設問に対して、「よくある」「ときどきある」と回答した割合は、貧困層世帯がそれ以外の世帯を上回っているものの、経済状況に関わらず子どもがひとりで食事をとっている世帯が一定数いることを確認した。大勢で食事をする場所や機会を増やしていく取組が必要であると考えている。２点目は、子どもへの支出状況である。「お誕生日のお祝いをする」「医者に行く」の設問に対して「している」と回答した割合は、経済状況に関わらず全世帯で高い割合となっている。一方で、「有料の学習塾に通わせる」「有料の習い事に通わせる」の設問に対して、「経済的にできない」と回答した割合は貧困層世帯のほうがそれ以外の世帯よりも高く、貧困層世帯は有料の学習塾や習い事への支出が難しいことがうかがえる。貧困層世帯に対する様々な体験学習や学習支援の取組の充実が必要である。最後に、議事の結果を報告する。議事（１）生活実態調査の中間報告では、長岡市子育て世帯の生活に関する調査結果の速報を説明し、質疑はなかった。議事（２）ワーキング部会の報告では、療育・相談体制の検討についての報告内容に関連して委員より意見があった。事務局としては、今後検討を進めていきたいと回答した。議事（３）ニーズ調査の実施については、質疑はなかった。議事（４）グループワーク「子どもの貧困対策についての検討」では、主な意見として、学習機会の提供、今年度から設置した子どもナビゲーターの拡充、子ども食堂の充実について意見をいただいた。会議の最後にアドバイザーからいただいたコメントを踏まえて、今後の取組について検討を継続していきたい。

（高橋教育長）　質疑、意見はないか。

（高橋教育長）　ニーズ調査の結果は、いつ頃の定例会で報告できるのか。

（大矢子ども家庭課長）　11 月初旬に発送し、２から３週間かけて回収して集計した後に報告することとなるため、年明けになる。

（高橋教育長）　平成 29 年度の総合教育会議で子どもの貧困がテーマとなった。今

年度も施策に取組んでいるが、調査結果を分析して次年度予算に反映させるなど、何らかの形で施策に反映させなければならない。

（青柳委員）　子どもナビゲーターについて、説明を願う。

（大矢子ども家庭課長）　昨年度の子ども・子育て会議や総合教育会議の中で、貧困層の方に様々な福祉のサービスや各種支援策がきちんと届いていないのではないかとの意見があったため、貧困層世帯と支援策をつなぐ役割として配置している。現在は、子どもナビゲーターが小・中学校を訪問して不登校のほか、学校側が問題を把握しているがなかなか対応しきれていない子どもの情報を集めている。その情報を基に、その児童・生徒が市の福祉サービスを受けているか照会をかけ、サービスを受けられるのに受けていない方がいることがわかった場合は、制度の利用の働きかけを促している。

（青柳委員）　子どもナビゲーターは何名いるのか。

（大矢子ども家庭課長）　１人である。学校からの情報もかなり入っている中で、１人ですべて対応をすることは現実的に難しい状況にある。

（羽賀委員）　ネグレクトの問題に関して、セルフネグレクトの問題が取り上げられていないと感じる。セルフネグレクトについて概念化や言語化することで、自身が該当しているのではないかと気づく場合もあり、子どもナビゲーターが気づきをサポートできる体制があるとよい。

（高橋教育長）　他に質疑、意見はないか。

（高橋教育長）　これにて、協議報告事項を終了する。

（高橋教育長）　次に、催し案内等について、説明を願う。

（小池学校教育課長）　熱中！感動！夢づくり教育×アルビＢＢ「ながおか夢授業」は、平成 30 年度から始める事業である。10 月 31 日に四郎丸小学校からスタートし全５回を予定している。２回目は 11 月 26 日に中之島中央小学校で実施する。長岡市と新潟アルビレックスＢＢはバスケットボールによる市民協働のまちづくりを進めるため、包括連携協定を結んでいる。子どもたちに夢を持つこと、努力することの大切さ、ふるさと長岡の魅力や誇りを伝えることを目的に、特別授業「ながおか夢授業」を行う。四郎丸小学校には、キャプテンの鵜澤潤選手と長岡市出身の石井峻平選手が訪問する。中之島中央小学校へ訪問する選手は未定である。授業の

構成は、前半 30 分はバスケ交流タイムとしてゲームを通じてふれあい、後半には講話としてプロアスリートになるためのストーリーや、ホームタウン長岡市の食や文化、地域の誇りや愛着を子どもたちに伝える。続いて、第 17 回いきいき教育推進懇談会を長岡市小中学校ＰＴＡ連絡協議会と共催で 11 月 30 日にアオーレ長岡で開催する。地域とともに学校はどうあるべきか、地域とともにある学校づくりを学校関係者、地域関係者、保護者などと語り合い連携強化を図るものである。今年度は、青葉台中学校区の連携・協働の取組を事例発表する。青葉台中学校区はニュータウンができて 20 年を経過し、住民の高齢化などの諸課題も出てきているが、学校とともにある地域との認識の下で、福祉関係団体が子どもを巻き込んだイベントや、縄文マラソンを開催するなど活発に活動している地域である。事例発表の後、関係者が異なる地域の方々と意見交換をした後、再び学区単位で集まり、自分の地域でどのようなことができるか協議するプログラムを予定している。

（山田中央図書館長）　読書の秋は図書館へ！は、秋の読書週間にあわせて、貸出上限を通常 10 冊のところ 20 冊に引上げ、多くの本に親しむキャンペーンを 10 月 27 日から 11 月 29 日まで実施するものである。本を借りた小学生以下を対象に、昔話をモチーフに作成した中央図書館開館 100 周年記念しおりをプレゼントする。子ども読書活動推進計画でも、家族みんなで読書をしてコミュニケーションを深める家読を勧めていて、この機会に多くの本を借りてほしい。

（小熊科学博物館長）　第 67 回生物・岩石標本展示会と第 60 回自然科学写真展示会を 10 月 30 日から 11 月４日まで中央公民館４階大ホールで開催する。先日の審査会で決定した作品賞の表彰式を 11 月４日に行う。同日、第 14 回関原楽市・縄文まつりを馬高縄文館エントランス広場と史跡公園を会場に、関原地区商工会と連携して開催する。地域の物産を紹介するほか、ミニ土器づくりや弓矢体験、まが玉づくりなどの体験ができる。今回は、日本遺産に認定されている火焔型土器のＰＲを図るため、他市と連携した縄文フェスにも位置づけられ、イベント内容が拡充されている。その１つとして、エレキチェロ奏者 斎藤孝太郎氏が火焔土器や大形土偶「ミス馬高」からイメージした新曲を披露する。

（大矢子ども家庭課長）　思春期向け次代の親育成事業を南中学校３年生５クラスを対象に３日間、関原中学校３年生３クラスを対象に２日間、ながおか市民防災セン

ター研修室で実施する。また、11 月の児童虐待防止推進月間にあわせて、チラシを子育ての駅や保育園・学校、医療機関及び民生児童委員などに配布し、普及啓発する。

（斎藤青少年育成課長）　家庭でワクワクお手伝いポスターコンクール展示会は、市内小・中学生から応募のあった 185 点から入賞作品 23 点を展示する。家庭でワクワクお手伝い通信 第 48 号でもポスターコンクールの結果を紹介した。全小・中学校に配布する。ながおか市Ｐ連だより 31 号は、市Ｐ連の活動についてまとめたものを年２回発行するが、今回が今年度最初の発行である。

（高橋教育長）　その他に報告事項はあるか。

（高橋教育長）　ながおか夢授業については、これまでもオリンピックに出場した選手を迎えて実施してきたものである。アルビレックスＢＢ選手のほとんどが長岡市に居住しているため、日頃接する可能性の高い人と交流することとなる。そのような選手が学校に訪問して技術を披露したり、どのようにプロ選手になったのかなどを話したりすることで、子ども達には、頑張っている選手が身近にいることを実感し、選手を応援するだけでなく、自分達も頑張ればプロ選手になれる可能性があるということを感じてもらいたい。アルビレックスは、地域貢献として自主的に校門であいさつの声掛け運動をするなどの活動をしている。この事業だけでなく、今後もいろいろな場面で子どもたちと交流する可能性があり、その１つとして位置づけている。

（高橋教育長）　以上で本日の定例会を閉会する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会教育長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員